

夢創造

令和元年9月2日（月）no.14 文責：上田

1 学期後半がスタート

夏休みが終わり学園に子どもたちの元気な声が戻ってきました。事故等もなくどの子どもも夏休みを楽しく過ごせたようで安堵しました。海山交流、ヒゴタイ交流派遣、夢塾、学年レクリエーション、プール開放、部活動等々、ご家庭の皆さんにはいろいろとお世話になりました。ありがとうございました。1 学期後半もお世話になります。

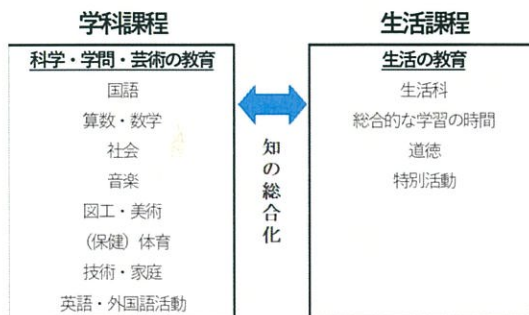
答えなき時代に生きる子どもたちへ

本校では、産山学園が開校する前から、地域の方々にご協力いただいて「うぶやま学」で様々な地域体験学習を行ってきました。「うぶやま学」は、他校であれば総合的な学習の時間にあたる教科ですが、「産山に誇りを持ち、将来の自己の生き方を考える」教科であり、産山の自然とくらし、そして未来を描く教科でもあります。

5月に行われた5年生の田植えの折も、地域の方々に田植えの指導をしていただきました。稲の生長については理科で学びますし、米の生産と消費については社会科で学びます。いわゆる「学科」の教育です。しかし、「うぶやま学」での学習は「生活」の教育と言えます。同様に、1・2年生の生活科や道徳、特別活動も「生活」を取り扱う教科です。

さて、総合的な学習の時間が学校で始まった20年程前のことです。我が子が、総合的な学習で農薬を播くことについて学校で討論をしたと話してくれたことがありました。当時、環境ホルモンが世間で大きな話題となっている頃で、子どもの話を興味深く聞いていると、何か実感のない討論になってないかと思えました。子どもに尋ねると、学校までの通学路で水田の稲を見ながら登校していても農薬については考えたことがないのです。米を消費するものとしてだけ向き合っているのは、学習は深まりません。食物への関心や疑問などを生活者として捉えておくことが大切です。本校の「うぶやま学」は、そんな生活に根ざした教科だと言えます。1 学期後半以降も地域とかかわる活動が続きます。子どもたちにどんな問いが生まれ、子どもたちがどのように追究しているのか、是非、ご家庭でも尋ねてみてください。

『山鹿川』復元記念式典が十四日（土）に予定されています。当日は五年生と九年生が、子ども議会」での提案から名称復元までの経緯説明、「うぶやま学」での産山の水にまつわる学習について発表します。また、今後、三年、八年の『山鹿川』の文字が橋銘板に刻まれることにもなっています。



※産山学園では義務教育学校として特例教科「うぶやま学」「チャレンジ学習」「英会話」を設けるなどして諸活動を通じた「学科」と「生活」の『知の統合化』に9年間に取り組んでいます。